

総務課長

皆さん、大変お暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。開会に先立ちまして、事務局より本日の会議についてご説明を申し上げます。総合教育会議は議事録を作成する関係上、録音させていただきますので、お手元のマイクのボタンを押してから発言をお願いいたします。この総合教育会議終了後、引き続き、議題を設定しない懇談会を開催いたします。懇談会につきましては議事録を作成いたしませんので、マイクは使用いたしません。以上につきまして、あらかじめ、ご了承くださいませようよろしくをお願いいたします。それでは、これより平成30年度第1回平取町総合教育会議を開会いたします。初めに川上町長からごあいさつを申し上げます。

町長

皆さんこんにちは。今年度第1回目の総合教育会議を開催いたしましたところ、大変お忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。日頃から町政運営並びに教育行政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。今年は特に異常気象なのか、低温、あるいは日照不足等により農作物への影響が徐々に出てきておりまして、大変心配をしているところでございます。今、台風20号が、北海道に向かってきてございまして、大変心配をしておりますが、町としても万全を期してまいりたいと考えているところでございます。さて、本題に入りますけれどもこれまで誰もが経験したことのない、人口減少、少子高齢化という大きな課題に直面しております。これまで以上に地域の連携、多くの町民の皆さんと力を合わせて、協働のまちづくりが大変重要となっております。そのためにも教育にかかわる役割がますます重要になってきてございます。今後とも学校教育とともに社会教育にも重点を置かなければ、地域を維持していくことは非常に難しい時代を迎えてきていると思っているところでございます。今日は第1回の総合教育会議の中で、教育委員の皆さんとひざを交えて、さまざまな教育行政の課題解決に向けて議論できることを大変うれしく思っているところでございます。本日は忌憚のないご意見を賜ればと思いますので、よろしくようお願い申し上げます。あいさつといたします。よろしくをお願いいたします。

総務課長

続いて庄野教育長からごあいさつをお願いします。

教育長

それでは平成30年度第1回総合教育会議の開催にあたりまして一言ごあいさつ申し上げます。本日は大変多忙の中、町長、副町長出席のもと、総合教育会議を開催いただきありがとうございます。また日頃より教育行政の推進につきましては、当町の課題解決に対し事業の実施また予算措置につきまして、非常に厳しい経営財政状況の中、特段のご配慮をいただきま

して、教育委員会として厚くお礼を申し上げます。総合教育会議が実施されましてから今年で4年目となります。今までの3年間におきましてはその時における平取町の教育課題について、行政と共通認識を持っていただき平取町として厳しい財政状況の中、予算措置をはじめ多大なるご支援ご協力をいただき、大変有意義であったと考えるところでございます。教育委員会における権限と責任の明確化、またあらゆる課題に対する、迅速な対応、住民意向に十分対応することができるよう、行政との意思疎通及び連携を密にとることを目的としての会議開催でございます。平取町における教育に対する課題や問題について、教育委員会としての意向や方針についてのご理解と行政からの意見のすり合わせが十分にできるよう、今回も期待するところであります。平取町における教育課題は山積みしておりますが、対応に遅れがないよう教育委員会としても取り組んでおりますけれども、町行政としての忌憚のないご意見をいただければと考えております。以上教育委員会を代表してのあいさつとさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

総務課長 ありがとうございます。それではこの後は川上町長が、議長となり会議を進めます。よろしく願いいたします。

町長 それでは会議を進行させていただきたいと思えます。3の会議事項、(1)の協議及び調整事項、①の当面する教育課題等について、資料1で説明願いたいと思えます。

教育長 それでは私の方から平取町の当面する教育課題につきまして説明をさせていただきます。資料1をご覧いただきたいと思えます。まず1点目として、学力向上対策でございます。全国学力学習状況調査につきましては、今年度4月17日に全国一斉に実施されたところでございます。平取町におきましては小学校6年生が欠学となっております貫気別小学校を除き、小学校4校、中学校2校が参加したところでございます。現在各学校において結果が出されてきているところであり、その結果を踏まえて、各学校における課題等について分析し、学力向上に努めている状況でございます。ご存知のとおり、昨年状況につきましては北海道は全校においても、正当率は低い状況であり日高管内におきましては北海道内においても低い状況でありました。そのような中、北海道、また日高管内として子供たちの学習の定着を図り、学校改善プランの見直し等を行ってきているところでございます。規則正しい生活と食事、それと小学校の勉強を基本とした家庭学習の実施が学力向上の大きな要因と分析がされているところであり、平取町におきましても、家庭学習の定着化、読書活動の推進、ノート指導学習規律の徹底や授業改善など子供たちの学習状況の改善を行い、学力向上

に向け、各学校において取り組んでいるところでございます。学力学習状況調査の結果が、子供たちの全てを判断するものとは当然考えておりません。子供たちがさまざまな可能性を秘めており夢を持っているものと考えます。その可能性を伸ばしたり、夢を叶えるための学力や努力する習慣を身につけるために活用することが重要と考えるところであります。結果に一喜一憂することなく、子供たちの学力向上に取り組んでいきたいと考えておりますので、ご理解の方よろしく申し上げます。平取町の子供たちの傾向としましては、小学校6年生の調査から中学校3年生の経年変化で見ますと学力は向上はしているところが見られ、取り組みについても成果が上がってきているものと認識をしております。町単独による教員採用で少人数指導体制の充実が図られていること、ICT教育を進めてきて、タブレット型パソコンや電子黒板、デジタル教科書の導入が成功してきているものと考えます。町の配慮としての教育環境の整備に対する予算措置が大きく影響しているものであり、改めて感謝申し上げますところであります。また昨年の冬休み1カ月、中高校生を対象とした公営塾、平取義経塾を開設することができ、生徒及び保護者には大変好評でありました。今年度それを受けて通年開設とし一人ひとりの学力、進路希望に合ったカリキュラムを組み立て、個別指導によりきめ細やかな学習指導が行われているところであります。現在の状況としましては、88名がカウンセリングを受けている状況でございます。内訳としましては中学校1年生が21名、これは平取中学校18名、振内中学校3名、中学2年生が21名で平取中学校が17名、振内中学校は4名、中学校3年生では24名、平取中学校19名、振内中学校5名となっており、平取高校生は1年生が8名、2年生が6名、3年生が8名で、中学生66名、高校生22名の合計88名となっております。平取町全体で中学生が123名のうち66名であります。中学生で大体50%、高校生で35%の生徒が通っているということになっております。教育委員会としては、もう少し高校生の受講が増えるように望んでいるところでございますので、PR等についても、今後も進めていきたいと思っております。中高校生の学力向上と平取高校への進学率アップを目指しての公設塾の設置でございます。生徒の評判は好評で個別指導が学びやすいと子供たちも言っております。続いて、2点目の体力運動能力向上対策についてであります。全国的に見ても北海道の児童生徒の体力運動能力は低い状況であり、平取町においても同じ傾向にあるものと認識をしております。各学校におきまして積極的に運動の習慣化を進めるための取り組みを行ってきております。全国体力運動能力運動習慣等調査結果を各学校において、分析し課題を明確にしながら、体力づくりに取り組むよう学校長に対して指導しているところでございます。町内で実施をしております小学生陸上競技大会や、町民マラソン大会などの児童生徒の参加率につきましては、児童生徒数の減少含めてもここ数年は前年並みとなっ

ておりまして、運動に対する関心はあると把握しているところであります。学校においても学校ごとに特色ある運動や遊びの中に体力づくりを取り入れて対応しているところがございますけれども、昨年の結果については、全国平均を多くの種目で下回っていることから、全学年での調査、今年度につきましては、小学校1年生から中学校3年生まで全学年調査を実施し種目に慣れることと、毎年の自分の数字を出すことによって運動に対する興味関心を持たせることとしているところでございます。生きていくために体力は最も重要なものであり、すべての基本となることでありますので、子供たちの体力づくりにつきましては、今後も学校校舎関係機関や体育団体などとも連携を取りながら、推進してまいりたいと思っております。なお今年度の子ども教育委員会につきましては、各小学校でそれぞれ取り組んで、体力づくりや、どのようにしたら体力づくりにつながる活動が行えるかを発表してもらいました。各小学校ともすばらしい実践をしており、発表についても子供たちが大変頑張っている非常に有意義な事業となったところでございます。次に3点目となりますけれども、学習指導要領の全面改訂に対応する学校教育についてであります。まず道德教育の推進についてでありますけれども、道德教育については、小学校においては今年度から中学校においては平成31年度から教科化が図られることとなっております。学校教育では人間として調和のとれた人格の育成を目指し、発達段階に応じた道德教育を行っているところであります。命の尊重や基本的な生活習慣の確立、ルールの尊重、コミュニケーション能力の醸成を図るために、各学校において、道德教育を中心として、指導体制の充実に努めてきておりますけれども、平取町としても、授業公開を基本とした道德研究推進事業を今年度も進めてまいります。次に外国語活動の推進についてでありますけれども、今年度より、小学校3、4年生から外国語活動が始まっております。既に行っておりました5、6年生についても、時間数が増えたところでございます。平取町ではALT2名と、今年度より時間講師1名を配置し、町内小学校中学校及び平取高校に出向き、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成を図っているところであります。2020年度からは小学校5、6年生での外国語が教科化となることから、早い段階で教員とALTによる外国語に親しみ諸外国の歴史や文化伝統について理解を深めることは大事なことと考えるところであります。小さな自治体、平取町5,000人の自治体において、ALTが2名と時間講師1名が配置されているのは稀でございます。財政措置に対して、感謝するところでございます。今後は中学校英語への接続をスムーズにするためのカリキュラムの研究と子供たちに小学校においていかに英語に親しみを持ってもらい、拒絶感のないようにしていくかが重要と考えるところでございます。次に主体的対話的で深い学び、いわゆるアクティブラーニングでございますけれども、地域学習指導要領のポイントとなる部分で

あり、先生が一方通行で児童生徒に知識を教え込むスタイルではなく、いかに子供たちが自分で課題を発見し自ら考え、他者の意見を聞き、話し合いを通して自分の意見を表現しながら、学んでいくことが重要とされているところがございます。今までも行われていたものではありませんが、今後、AI、人工知能のさらなる発達や情報通信社会の進展により、現在ある職業の半数以上がなくなっていく社会において、いかに生き抜く力を子供たちに持たせるか、そのための課題発見能力、課題解決能力、表現力やコミュニケーション能力を高めていくための学習のポイントとなるものがございます。小学校では2020年から中学校では2021年からの学習指導要領の全面実施に向けて、現在は先行実施機関となっております。各学校教員においては模範事業への参加や事業公開、研修などを積み重ねているところでもあります。4点目としまして、平取高校の振興発展についてであります。北海道教育委員会より出されております公立高等学校配置計画案では、平成31年から33年度までの見通しとして、日高管内の各学校においては学級数の減はございませんが、34年度から37年度の4年間で、ゼロから1学級相当の調整が必要とされているところがございます。今年度は平取高校への入学者が22名となっております。地域連携特例校、旧キャンパス校でございますけれども、再編困難か地元進学率が高ければ、存続するという道教委の方針であり、20人未満になりますと再編の対象となり、2年連続10人を割った場合については再編整備が進められるところがございます。町内中学生の進学率は今年度30.6%であり、対策が急務となっているところでもあります。センター校である静内高校と連携した教育活動等により教育環境の維持充実を図るとともに、町における手厚い経済的支援のもと、生徒確保に努めているところがございますけれども、それだけでは入学者の増加は難しい状況であります。地元の高校と地域が一体となって、高校を守っていくとの認識のもと、平取高校振興支援協議会を昨年度2年ぶりに新たな役員のもとで開催し、公営塾の設置による平取高校生の学習支援及び進路支援につきまして、理解して今年度から通年になったというのは先ほど述べたとおりでございます。また今後の課題としては、経済的支援、学習支援、進学就職支援で、高校進学する生徒や保護者の多くに選ばれる高校となるのは、非常に難しいため、特色ある学校づくりを進めるための検討として、地域の伝統文化であるアイヌ文化を学ぶことができるカリキュラムの導入や、地域の基幹産業である農業への多様なアプローチができるカリキュラムなど、道立高校でございますけれども、地域資源を生かした特色ある高校となるよう道教委に働きかけをしております。また平取高校を中心として平取中学校、平取小学校とのふるさと教育の道教委による実践校指定が、昨年度で終了しておりますけれども、町の基幹産業である農業やアイヌ文化を軸とした活動は他ではない特色あるものとして高い評価をいただいたところでもあります。今後もさ

らに3校連携した事業推進を独自に支援していきたいと考えております。また平取町開拓の多くの方が淡路島出身であることから友好提携を行っております。南あわじ市に今年度平取高校の修学旅行で行くこととなっております。市協議会と調整をし、淡路の伝統文化の体験や地元高校生との交流も行うこととしており、ふるさと教育の実践と考えているところでございます。また昨年、平取高校1年生2人がニュージーランドのマオリの学校に短期留学したことから今年度、マオリの生徒4名を短期留学で受けることとしておりますので、今後は交流を継続し、国際交流の行える高校としてのPRも行っていきたいと考えているところでございます。また道立平取養護学校につきましても1978年開校以来40年間、地域とつながりは根づいており、行政としてもあらゆる支援を行いながら現在に至っているところであります。苫小牧地区においては地元特別支援学校の設置という話が新聞紙上に載ったところでございますけれども、平取町としましてはこれまでの経緯や学校保護者との信頼関係、地域振興を含めて、養護学校の存続が最も重要であると考えているところであり、行政や議会、後援会と連携をしながら、道教委を始めとして関係機関に働きかけをしているところでございます。5点目になりますけれども生涯学習の推進についてであります。社会情勢の目まぐるしい変化に対応し、町民各年齢層のさまざまなニーズに応えることができるよう、学習要求を的確に把握し最大限の費用対効果を生むことができるよう、事業の精査を行っていくことが重要と認識しております。生涯学習委員会及び教育委員会外部評価委員会を中心として、事業評価等を行っておりますので、それを基に事業のスクラップアンドビルドを今後も行っていきたいと考えております。また公民館活動については、人口減少少子高齢化の時代にいかに地域住民の力をまちづくりに生かすことが重要との啓発を含めた、活動を展開するよう検討していきたいと思っております。町民芸術劇場につきましては今年度、国指定重要有形民俗文化財である、淡路人形浄瑠璃を南あわじ市の人形座に来てもらい実施したところであります。今後も一流の芸術を、町民に見てもらえる機会として実施をしていきたいと考えております。健康で生きがいのある生活を送るために体育スポーツ活動は重要であります。少子高齢化に伴いスポーツ団体の活動に支障が出てきている状況ではありますが、住民の健康体力づくりや趣味としてのスポーツの衰退をいかに止めるかが課題となってきております。また今後は、老朽化している施設の維持補修や改築についても大きな問題でございますので、関係機関有識者などと協議をしながら、どのようなかたちにしていくか検討していきたいと考えております。今後の社会体育の方向性としては、町民の健康維持を関係機関と連携しながら進め、医療費等の抑制と、死ぬまで自分の足で歩くことができる幸せな人生が送れるような事業展開も重要と考えているところでございます。町民の学ぶ意欲を生涯にわたって持ち学習意欲や知識の習得の要求

に伝えることができるよう、図書館活動を進めることが大切と考えてございます。図書館の存在をより一層町民にアピールすることと視聴覚ホールの利用の推進、図書ボランティアの方々との懇談や交流、新たなボランティアの育成など図書館だけで行うのではなく、他機関や団体とより連携を取りながら進めてまいりたいと考えております。次に国際交流事業の実施についてであります。平取町は特に二風谷を中心としてアイヌ民族文化の研究や交流などで国際的にも注目が集まっており、多くの外国の方々が訪れております。これを契機として、青少年を中心に国際交流を進めていくことがグローバル社会に対応する平取人の育成につながることを考えております。ニュージーランドやカナダ、台湾またはポーランドとの繋がりもできていることから、今後も力を入れていくことが重要と考えますので行政のご理解をよろしくお願ひしたいと思っております。6番目のアイヌ文化の振興についてでありますけれども、町長も平取町の重要施策の一つと位置づけているところでございます。二風谷中心市街地の整備につきましても既に年次的に事業が進んできておりますが、今後も関係課との連携を密にし、博物館の入館者対策も踏まえながら、より積極的に取り組んでいきたいと考えております。アイヌ文化博物館の改修工事も昨年度終了し、訪日外国人への対応についても、一定程度進んできている状況でございます。平成29年度末をもって白老町にある一般財団法人アイヌ民族博物館が一旦閉館しており、平成32年に新たに国立アイヌ民族博物館が開館することになっておりますけれども、アイヌ文化への社会的関心の高まりを背景に海外からの旅行者や一般の来館者の数は増加傾向となるものと考えます。こうした状況から博物館としては今後も来館者のニーズに対応したアイヌ文化の情報発信や、各種体験学習の実施、屋外展示施設の活用等また町民に対しての普及啓発活動や、特別展の開設など魅力ある博物館運営に努め、交流人口の拡大とアイヌ文化への理解を広げていきたいと考えております。そのためにも関係機関との連携を密にしながら、博物館活動の推進を図ってまいります。また沙流川歴史館につきましても、国の施設であることから施設の老朽化に伴う維持補修などについて、今後については建設の経緯も含めて、国の理解がしっかりと深まるよう定期的な意見交換の場を設定する、提案するなど、町からも積極的に対応を行い、歴史館活動がスムーズに行われるように検討してまいりたいと思っております。7番目になりますけれども、文化財等の保護と活用でございます。重要文化的景観の整備計画につきましてもサイン計画に基づき、解説看板や案内看板の設置を行ってきております。今年度は景観サインを国道退避所に設置予定でありましたが、平取温泉付近に移動し、設置すべく地元関係会議などでの承認、文化庁との協議を経て、補正予算により設置する予定で事務を進めているところでございます。また博物館の4号チセの集計業務につきましても計画どおりに実施してきておりますけれども、一部ドラマ撮影

が入ったことにより、延びておりましたが終了後速やかに完成させる予定となっております。チセにつきましてはその利活用を検討するよう意見が出されておりましたので、今後有効な利活用について検討し、早い段階での提案をしていきたいと考えております。今後は1次、2次選定箇所の保全と有効活用、整備につきまして、保全委員会を中心として協議を進めてまいります。また文化的景観保全委員会等でも配付しましたが、文化的景観マップ、選定エリアを詳細に示した図を作成するとともに、文化財保護法に基づく協議を有効に進めるために協議フロー図も作成したところがございます。また今年度しばらく開催しておりませんでした文化財審議会の開催を予定しており、文化財保護行政に対する意見の聴取を行いたいと考えているところがございます。開拓財産の保全と活用につきましては昨年度、開拓財産の移設を行い、旧荷負小学校の2階へと公開展示ができる資料について移動したところがございます。その他の寄贈された開拓資料については保存状況を確認しながら、旧振内営林署事務所内で保管をしているところでもあります。また、振内の柔道場につきましては老朽化による被害が心配されておりましたが昨年の12月に解体いたしました。旧荷負小学校における開拓財産の活用、展示物の効果につきましては、実質平成31年度からになるものと考えているところがございます。以上、大変長くなりましたが、当面する教育課題についての説明とさせていただきます。今後も町長、副町長と教育委員会の意思疎通を図りながら、教育行政の推進に努めてまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。以上です。

町長 はい、ただいま教育長から、当面する教育課題等についての説明があったところがございます。平取の義経塾は、88名ですね。高校生は、22名ですね。

教育長 当初開設するときに、塾の方には大体これぐらいの人数じゃないかという数字は言っていますけれども、やはり平取高校の存続ということがありますので、半分以上は来てもらいたいという考えです。

町長 高校存続ということを大きな狙いにしながら、大きな学校や街に行かなくても、保護者のニーズにあった、ここでも希望する大学あるいは専門学校、そして希望する就職にもうまく活用できれば、非常にありがたいと思っております。ただ、すぐに成果は上がらないと思っておりますけれども、高校にうまく導き出せるような展開が必要なのかなと思います。ただ本当に義経塾ありきでは、なかなか特色を出せないということで先ほどお話あったように、アイヌ文化の関係をに入れていただいているということで、もう少し、いろんな視点から掘り下げながら、安心せずにはいかないと20人を連続で

切ると見直しの対象ということです。今日は朝、様似で会議があって、帰ってきたのですが、様似高校も浦河と統廃合いたしまして、町全体に活気がないというか、非常にそういう感じも受けますので、何とか道立の養護学校もそうでありますけれども、高校は何としても残しながら、高校ぐらまでは子供たちが地元で学習できる、そういう環境を整えていかなきゃならないと思っています。それと、ICTの関係、これも管内でも抜きん出てやってございまして、私もフィンランドに行ったのですけれども、ここは国全体で、教育の一つの柱にしてやっているというのを実際に見てまいりまして、今後は非常に大事なことだと思っています。フィンランドの子供たちは、もう応用編でやっています。いろいろ電子黒板を使いながら、自ら考えたことの発想を出すようなそういう生かし方、ICTを使うとかではなくて、応用編に行っているのです、その辺の先生の教育が平取ではどうなっているのかなと思っていますが、どんな感じでしょうか。

教育長

ICT機器を入れてから平取町はかなり経っており、当初は先生方についても苦手な先生ですとか、結構、拒絶感があったりとかはありましたけれども、最近、こういう時代になってきていますので、使えるというのがもう常識的なかたちになってきたり、子供たちの方が逆に使えたりということもあったりして、町でもICTの研修だとかをやってきましたけれども、今は中心となる先生が各学校にいて、そちらの方で、研修しながら、有効に使っていくというようなかたちです。先生方もそれを使うことによって、多忙感があるところを少しでもカバーしていけたり、子供たちの集中力をそこで持つとか、1時間いっぱいICT機器を使うということではないですけれども、ポイントポイントで使いながら、子供たちに、興味を持たせるというようなかたちで進んできています。とは言っても十分というかたちではないので今後も、研修などを続けていきたいと思っています。

町長

学力向上の対策の関係で何か皆さんの方から、お気づきの点がありましたら、遠慮なくお話していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。今、日高管内で高速通信網が整備されているのは、浦河と平取ぐらいなので、非常にその課題が大きく、大きなお金もかかるということで、新冠の町長も総務省に行って、何とかお願いするというので、大きな課題になっておりますが、平取はもう既に全町に張り巡らせています。これをどうやって有効活用していくか、教育もそうでありますけれども、今、静内との関係では遠隔的なかたちで双方向で事業をやっている部分もありまして、もっともっと活用がうまくできたらいいなという思いはしております。1番はよろしいですか。

教育長

先生方なのですけれども、うちの学校の場合、平取小学校、中学校を除い

て、ほとんどの学校で生徒が少ないので複式が入ってきていますが、先生方は複式で子供たちに教える研修というのはやってきてないのです。平取に来て初めて複式を持ったという先生もいるので、文科省の方は先生方の数を増やしていかないと、小さな学校では研修に出ていくにも出ていけないということもあるので、その辺を改善していかないといけない。2クラス持ちながら、1、2年生を持ってやるとか3、4年生を持ってやるっていう大変さは、授業を見てみると分かることなので、なかなか大変な問題なのかなと思います。

町長 これはもう当町ばかりではなくて、少子化であちこちで複式がどんどん進んでいるという中では、そういう対応も、北海道あたりにも、そういうお話をしながら研修だとかいろんなことをやっていかなきゃならない、大事な大きな新しい課題かと思っております。

本間委員 学力向上対策という中で、今のお話に出ています複式の関係なのですが、各学校で支援員という方を雇っていただいて、各学校に、来てもらっていますけれども、何となく私の感想としては、もったいないなというのがあって、できれば学校に1人ぐらい、へき地で複式校も十分にやってきた校長先生とかを時間講師でいればですがそういう先生を招聘して、複式の教育たるやどういうものかというのを校内で直に習ってもらえるような環境づくりというのも、先生方が出ていけないのだったら、そういう時代なのかなって思います。だから、1週間に3日とか2日招聘したら、今日は貫気別、今日は振内、二風谷っていう感じで回っていただいて、こういう教え方もあるよってことを指導していただけるような、経験豊富な方がいればの話ですけれども、そういった方向にも目を向けていくのもいいのかなという気がします。

町長 そういう意味では、OBの先生方をうまく活用できればいいですね。今、支援員は先生方の補佐的なところまでいっていますか。

教育長 特別な配慮を必要としている子供たちですけれども、そういう生徒は、支援員が生徒の面倒を見ながら、担任の先生をサポートするというかたちでやっていますが、それだけのために平取町では12名、小中学校で支援員がいるんです。こんなに支援員のいる町って本当にあまりないのですけれども、支援員も今、TTとって先生1人じゃなくて2人で連携しながら教えてたりだとかそういうことをやっていってるので、そういう認識してもらって、そういうことができるようなかたちにもっていかないと本間委員の言ったとおり、もったいない部分もあるので検討していかなければと思っています。

町長 ほかの機会に入れかえていくというか、そういう人をターゲットにしな
がら、そういう経験者をうまくですね。

教育長 支援員は、幼稚園教諭ですとか、保育所の免許を持ってたり、先生の免許
を持ってる人ということで来てもらっています。なかなか平取でも探すの
が大変な状況ではあります。

町長 そういう地道な展開をしながら、少しでも向上するような体制作りという
のは、非常に大事なことだと思ってます。
はい。よくわかりました。

教育長 一つの教室でやっているの、子供たちも大変で、先生方も大変です。

町長 そういう面で、学力が全国平均を下回るということへの影響もあると思
いますが、先ほど教育長からお話あったように、家庭学習が習慣づいてとか、
もろもろいろんな要因があると思いますし、また、先生の指導の仕方もある
のか、いろいろとファクターがあるのかなと思います。

教育長 1番はやっぱり学校に入る前の段階での家庭学習だとか、ルールだとか、
そういうことがなっていると、保護者の中には全部学校がやってくれると
思っている保護者もいます。

本間委員 保育所に行ってる子はまだしも、行ってない方もいらっしゃる。就学前児
童に対するいわゆる事犯意識を、だめなものはだめなんだよ、いいことし
たら褒めてもらえるんだよってというような幼児教育をもっともっと町も
我々も気をつけていかないと、何でもかんでも学校に押し付けておけばい
いんだと思っているお父さんお母さんが多いので、だからそういった部分
でいくと、支援員の方も大変でしょうけど、もっと就学前の子供たちにも
目を向けてもらえればと思います。

町長 地域に学校があるという中で、学校だけでないという視点から、そういう
面ではコミスクを進めておりますけれども、大事な視点になってくるのか
なっていう気はします。学校があつての地域でなく、地域の中に学校があ
るといふかたちの中で、みんなで子供たちの郊外活動もひっくるめて、気
がついた点があれば、指導するというか、みんなで守っていくか、そうい
うことが大事だと思います。

本間委員 就学前の児童を学校に連れてきて一緒に、例えば足し算やるよとか、ちょ
っとした平仮名書いてみようかっていうようなことなど、保育所に行って

ない子にも声をかけてやるのも面白いのかなと思います。

町長 読書も大事だということも言ってたのですが、小林委員には読み聞かせをやってもらっていて、興味を湧かせる、本に親しむということを小さい時に植えつけないといけない、そういう面では非常に大事なことをやっていただいているといつも感心しています。小林委員どうですか。

小林委員 昨日も平小の方に20分休みに行ってきたのですが、局の方からも来ていたので、いろいろ話しをさせていただきました。わりと子供たちって、私たちが読んだものに関して覚えてるんです。それで後になって全く別の機会で話しかけてくれて、そのことを話したいとか、あとお家に帰っても家庭でその話をされるって事を聞きました。ただ、私たちが望んでるのは、家庭でももう少し、そういうのがないのかなって思います。さっき親の意識改革っていうのがあったんですが、それが見えないんです。今の家庭の中で、どのように子供たちと接しているのか。だから、その辺がもう少し見えてくるかたちってないのかなって思ったんです。家庭の中のことは、なかなか聞きにくい、言いにくい、出しにくい部分があるんですけども、やっぱり、小さいうちからこの町で育っていく、そして上に上がっていくってことで、その辺もちょっと地域に見えるようになってくると、もう少し子供たちも親も育つんじゃないかなと昨日思いました。

町長 すごくいい利益を与えるものですが、読み聞かせる人が、1人でやっても限界があるので、親がそういう認識を持ちながら、幅広くいろんな人の考え方をその本から学ぶとか、興味を引き出していくということが大事なことでといつも感じているところでございます。いろいろ、複式の関係、あるいはITの関係もそうですけども、いろいろと課題があります。1番目はよろしいですか。何か気がついた点がございましたら、また、後ほど全体通じて、お話を聞きたいと思います。2点目の体力運動能力向上の対策の関係ですが、これは、スポーツ少年団とかいろんなかたちで活動を展開しているんですけど、基本的な体力が全国から見ると低下しています。

教育長 調査結果を見るとそのようなかたちに出てるんですけども、種目慣れしていないというのがあって、多分、他のところでは、そういう種目に慣れるようなことを事前にやっていて、それで調査である程度の数字を出せていると思うんですけども、ただそれにしても、走ったりとかそういう部分でもかなり劣っている部分があります。スポーツ少年団などにもかなりの子供たちが入っている状況ではありますので、学年ごとに差はあるにしても、ちょっと体力が低いってことがあるので、その辺も含めて今年、子供教育委員会の中で各学校でどのような取り組みをしてるかとか、こん

な事をやったらいいんじゃないかということも、発表してもらったりしています。例でいうと紫雲古津小学校ではずっと一輪車をやってまして、技術などは素晴らしいです。

町長 これから頭ばかりではなくて、体力もつけて、心身ともに力をつけて、バランスを計りながらってということになるかと思います。子ども教育委員会では、主にどういうことが出るんだろうか。子供たちの声として。

産業課長 前は、平取町のPRをどのように効果的にやれるかっていうことを子供たちに発表してもらったり、今回は体力づくりについて、去年は各地区、学校の自慢できることを発表してもらおうということをやったんですけども、平取の子供たちは、来た先生たちや、よそから入ってきた人に言わせると、素直ですごく純朴なんですけれども、弱い部分は、表現力だとか自分の意見を言ったりだとか、そういう部分がかかなり弱いようです。皆の前で発表したり、中学生の主張みたいなかたちで話す機会だとかということもやっていますけれども、そこをもう少し鍛えていくのが大事かなと思っています。

町長 地域の愛郷心というか、ふるさとに対する気持ちというか、地域に関心を持ってもらうという意味では、こういう子ども教育委員会は、子供の素直な感性や、いろんな話を導き出すと町の将来がストレートに出てくることもあるのかなと思います。我々の年齢だけが将来のまちづくりを語るということではなくて、子供たちも参加させながら、町の将来を考えるということがこれから大事なのかなという思いはしております。

教育長 中高校生については中高校生議会というものも前にやっていたので、その小学校版みたいなかたちなんですけれども、できれば中高校生議会みたいなものを復活してもらって、子供たちが何を考えているかというのをくみ取る機会を作っていくのが大事なかなと思います。

町長 私の思いは、やはりふるさと教育をしっかりやることですから、3地区で幌尻まつり、モンキーリバーやファミリーフェスティバルをやっていて、あれはなくさないでくれと言って、ふるさとのお祭りとしても、意識付けられています。、実行委員も高齢化して、なかなかできないっていうのであれば、地域の人で実行委員会をつくって、盆踊りとか七夕とかを大切に、記憶に残す、そういったことがふるさとに戻ってくるきっかけにもなるし、また、就職先がなくて都会に出て外で働いても、何らかのかたちでふるさととその繋がりができるのかなと思っています。何らかのかたちで発言できる場ということで、2年前だったと思いますけども

高齢者との交流事業ということで事業をやったんですけれども、10テーブルに分かれて、地域の課題についてお年寄りと高校生とコラボでやったら、自分の孫と会話ができたということにお年寄りがすごく目を輝かせていて、いつもこのような交流ができるようにという課題が、10テーブルで申し合わせしたように出たんです。珍しいことなんですけれども、今、サロンというのがあちこちにできてきて、これから説明があると思いますけれども、あれもやっぱりお年寄りばかりではなくて、子供たちも行けるような、そういう交流の場になれば、もっと充実するのかなと考えているところでございます。次に、3番目の学習指導要領の全面改訂に対する、学校教育の関係はどうでしょうか。何か特にお気づきの点がありましたらお願いいたします。

和田委員

先ほど、教育長からお話あったように、学習指導要領ですけれども、今回の学習指導要領の改訂は小学校の大きな変更点というのは、道徳教育を教科とするとということ、それから外国語活動を小学校5、6年生から教科とするとということ、そして3つ目はプログラミング教育ですね。これは今年度から始まっているんですけれども、調査をすると新聞報道にもよりますけれども、保護者の方から知らない、このプログラミング教育を知らない、やっているのを知らないって答えたのが43.9%いる。平取町ICT教育で数年前から、取り組んでいるわけなんですけれども、一つ考えていくと、今はスマートフォンであるとか、タブレットの普及によって、最近パソコンが使えず社会に出る学生が、増えているということが問題視されている。そのことから、このプログラミング教育ができたというふうに聞かされてるんです。ですからパソコンを使う場面だけでなく、望む結果を引き出すためには、何をどのように、どういった順番で使えばいいか、行えばいいかっていうことを論理的に考える力、これをプログラミング教育で求められているので、先ほどICT教育の話も出てましたけれども、これを応用する電子黒板であるとかパソコンを使うだけではなしにこれを応用する教育っていうのも本当に大切なので、やはり先ほども支援教育の話が出ていましたけれども先生方が、なかなか活かし切れていないという場面が見えますので、人材活用ということで、コミュニティスクールCS教育が出てきますので、それを活用しながら地域の人材に学校に入ってもらって、教員の方も勉強するということをこれからしていかなければいけないかなと思います。

町長

特に外国語活動の推進、これもあの教科になるということで、今もインバウンドでずいぶん二風谷にも来てますし、結構外国から来る方がいるので、何かうまく接触できる機会を設けられないのかなと思います。日本の英語というのは、しゃべる英語じゃないので、大学まで英語をやるんだけど、

なかなかしゃべれないという、しゃべれない英語を学習しているので、実践でできる会話、そういうノウハウというのは、あるような気がするんだけど、この前温泉に行ったら、お父さんがアメリカ人で、お母さんが台湾人という子供が、風呂に入ったり出たりしていたので、日本人みたいな顔しているので、話しかけたら日本語をペラペラしゃべるんだけど、どこから来たのと聞いたら、札幌に住んでいますと言って、外国人なんですけど日本語ペラペラなんです。どうやって覚えたのと聞くと、最初は全然分からなかったけど、話しかけたら何となくだんだん分かってきたと言って、本当に日本語が達者でびっくりしたんだけど、そうやって、我々もしゃべれるようになるのかなって思いました。単語から始めて文法とやっていくことでなくて。子供の学習能力ってすごいなと思って、そしてお父さんとは、英語で話していました。やっぱり実践なのかなという感じがしました。二風谷には結構そういうインバウンドで来る人がいるので、そういう接触っていうのが本当に大事なかなという感じがしています。あとどうでしょうか。

教育長

外国語活動もALTが入って、遊びの中で覚えていくということでやっていくと、子供たちがすごい興味を持って、楽しんでやっていますけれども、これが教科になってこの学年で英単語を覚えなきゃいけないだとかということになってくると、小学校でも英語が嫌いになってくる子が出てくるんじゃないかということがあるんです。ALTの人に今度出てくる教科書を見てもらうと、子供たちにはすごい難しいというような評価をするんです。子供たちに、ここまで教えるってなると大変だというようなことも言うるので、小学校のときに英語を好きになって中学校に接続してというかたちにしていかないと、小学校の段階で英語嫌いになってしまいます。

町長

最初の導入時の面白さみたいなことを教えた方がいいと思います。中学、高校みたいな文法がこうでやっていると、アレルギーになってしまう。重要性を小学校まで下げてきているんだけど、そのやり方がちょっと違うのかなって思います。興味から、遊びを通じながら会話できたとか、そういう感動とか喜びも味わいながら入っていくと、正確な英語になってくるのかな、成果が出るのかなっていつも思います。そういう面ではね、うまくその辺を指導してもらいながらやってくれば良いなと思っております。それでは、4番目の平取高校の振興発展の関係、支援協議会ということで、今、キャンパス校となっていますけれども、20人を2年連続下回った場合は、見直しの対象となりますね。

皆さんの知恵もお借りしながら、何とか存続しながら、如何せん、地元の高校に残るのは50%以下ということです。何とかこれを高めていく一つの手法として、義経塾をやっておりますけれども、協議会組織があります

ので、さらにいろんなかたちで、展開していただきたいと思います。全国から注目されるような取り組みをしていかないとだめかなと思います。確か静内農業高校については、枠を超えて全国から入れるような、馬文化の絡みを取り入れながらやるということで、今年からそうなったみたいなので平取はどうでしょう。

教育長 平取は全国から呼ぶという訳にはいかないです。それは何か特色あって、こういう状況で全国から来たい人がいるのでということだと評価されるということになっています。

町長 特にアイヌ文化っていうのは、やっぱり日本の先住民ということの位置づけの中でやっているの、その辺はどうなのかなと思ったりしてるんですけど。

教育長 町内の中学生卒業生全員が入っても40以下になる時代が来ますので、よそから来ることも大事ですし、今は塾もやらせて3000万円も入れているということで、学力だけっていうのは非常にもったいない話なんです。町のまちづくりプロジェクトの中でも話してもらっていると思いますけれども、高校を軸にした町づくりだとか、高校生の考えだとか、そういうものを地域と一緒に進めて話したり、アイヌ文化だとか農業関係だとかっていうのももちろん大事なんですけれども、平取の町をどういうふうにしていくかという考えを持つような高校生を育てていくような、そういう力が必要なのかなっていう気はします。

町長 5,000人の町で3,000万円、一般財源を踏襲するというのはすごいことなんです。なかなかできないです。そういう面では今、町の収入の2分の1を占める交付税が毎年、減らされてまして、しかしそれに嘆いていても仕方ないので、別なかたちの中で、新しいニーズに合うものは積極的に取り組まなきゃならないけど、スクラップアンドビルドで、対処していかなきゃならない時代が来てるなということを思っています。

教育長 全国でも生徒が少なくて、大変な状況だってことを理解して地域づくりをやっていると、今盛り返ってきています。そういうことをうちも早い段階でやっていかないと、町自体も人口が減少しているの。

町長 特効薬はないですけども、夕張はコマーシャルでもやっていますね。

教育長 その辺は、副町長にも町づくりプロジェクトの方で話してもらっていますけど、副町長どうですか。

副町長

平取義経塾が、ダイレクトに平取高校の存続のためになっているのかなというようにもあって、聞くと本当に4分の1ぐらいの方しか出ないということですが、やっぱり平取高校ってすごいんだ、そういうイメージを持たせないと入ってこないんじゃないかと思います。先ほど教育長が言ったとおり、うちの中学校、全部が入っても満たない時がくるので、存続させるという前提がしっかりして、町のため高校は必要なんだっていうのが、町民の共通認識として最初はないと、なかなか厳しいのかなと思います。現実としてやっぱり、町外のちょっと上のレベルの高校に入れたいと思う親御さんもまだまだいるということですから、そういう生徒に直接関係のある世代が、やっぱりうちの町に高校が必要なんだという思いが、結集しなければ、施策として町のお金を使って、存続させるというのは難しいのかなと思ひまして、義経塾が始まりましたが、独自のプログラムを本当にその道立高校で、町の思いでやってくれるのかどうか、そういう緻密な議論なんかも必要になってくるのかなと思います。今、町部局で、まだ話が進んでないところもあるんですけども、本当にやろうとすれば結構大規模のお金がかかるというところなんです。いろいろ知恵を絞りながら、他の例も見ながら、考えなければならぬのかなと思ひて、皆さんに相談する場面があるかと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

町長

やっぱり島根県の島前高校に私も行ってきたんです。やっぱり地域はすごい元気なんです。そういう外から入ってくる人がたくさんいて、地域がもう元気だし、冬になったら島根県のこっちまで渡れないという状況の中で、北海道からも1人子供が行ってましたけど、泊まる宿舎っていうのもきちんと整備されていて学習しています。学校が終わってからもやっていますので、もう1間口で大変だったのが今は2間口ありますから、何か発想を変えなきゃダメな時代が来るのかなと思ひておりますけれども、今後とも今言ったように、町民が本当にここを残すんだっていう、そういう認識を持ってもらって、やっていかないとこれから難しい時代がやって来るかなと思ひております。これはもう話が尽きないんで、なんとか特色ある学校づくりを高校とも連携しながら、また地域とも協議しながらやっていかないと、3,000万円のほかに、子供たちの制服から、たくさん支援しているんですけど、お金ではない部分もありますけれども、これらについてもよろしくお願ひをしたいと思ひております。それでは5番目の生涯学習の推進の関係ですが、何かこの辺でお気づきの点がありましたらよろしくお願ひしたいと思ひます。特に社会体育活動の推進では、堀内委員には、町民の健康づくりということで毎朝、朝のラジオ体操を中村七郎さんから変わらして、頑張ってきていますが、あれが全町に広まって健康づくりの一つのきっかけになればいいなという思いはしてるんですけど、その辺どうですか。

堀内委員 大変な目にあっております。延べ人数でいくと、すばらしい人数になる事業で、身に余る部分がございます。ただ毎朝、みんなと顔を合わせて、皆さんの状況が分かるとか、その場でいろんな話が聞けるとか、老人の方、独居老人の方の安否確認という部分でも、あれに勝るものはないんじゃないかなって感じがします。

町長 本当にいつも来てる人が来ないと、どうしたんだろうとなってくるので、特に地域のコミュニティにもつながっているし、100日体操ということでやっていますので、すごいなって思います。継続は力なりで、本当にすばらしいことだなって思ってるし、何とか、平取も、平成元年に健康づくり宣言の町って言って、食育のいろんな取り組みをやっておりますけど、まだまだ足りないかなと思います。人生100年時代を向かえて健康長寿でいられるためには、そういうものを広めないでだめかなと思っているので、大変なことですけど、それが100日達成したら何となく自信につながってると思います。

堀内委員 それとですね、体育館の利用率が非常に下がってきている部分ですが、本来は、子供たちのさっきの体力の話にちょっと通じるんですけど、川に行ったら通報される、山に行ったら怒られるという部分で、案外子供たちは自然の中に行く場所っていうのはないんですよ。さらに遊具で危ないものはすべて撤去される、基本的に子供は危ない物が好きなんです。そういう部分では体育館が本来受け皿とならなければならない重要性というのは、前の時代よりどんどん大きくなってると思うんです。その割りに体育館に子供は来ないです。何が違うのかなと思ったら、遊んでくれる人がいないんです。だからクラブとかに入ってる子は専門に面倒見てもらえるんですけど、それ以外の子供っていうのは、全く体育館に行っても遊べないというのが現状でして、結構昔の体育館の職員というのは、フロアに出て遊んでくれたり、いろんなことやってくれてたと思うんですよ。そういう部分ではやはり体育館のアスレチッククラブ化と言ったらちょっと違うんでしょうけど、今は町でも、普通の市営の体育館よりはるかにアスレチックの方に、大人たちが行くという部分では、結局はスペシャリストがいて指導してくれる人間がいるという大きな要素があると思うんですよ。これから体育館の人数を増やしていくという部分では、そういう部分まで踏み込んでいかなければ、ちょっと難しいのかなって感じがします。さらに、先ほど言ったような子供の部分では、遊んであげられるような人間の配置とか、事務職だけでない現場に出られるような職員の配置というのが、将来的には重要視されてくるような気がいたします。以上です。

町長 昔は私も、入った当時は振内に4年間ほどいたんですけど、大変充実した

4年間だったんですけど、これはもう、鉄道あり、営林署あり、いろんな工場とか施設がありまして、人数もおりましたので、場所の取り合い、練習の曜日の取り合いみたいなことでやってたんですけど、今は、当時から見ると半減しているんですね。

堀内委員 クラブをやってる人は、やるんだけど、昔は何もやってないんだけど誘われて行く人とか、大会の時だけ行くというような、ちょっと出て行くって言う人もいたんです。今は、そのちょっと出で行くっていう人が全くななくなってしまいました。それは何故なのかなって感じがします。やっぱり年齢的なものがあるんでしょうか。

町長 アスレチック化みたいな、目的を持って行けるようなかたちも大事なことになるのかもしれませんが、これは課題として承りさせていただきたいと思っております。これから町民の健康づくりっていう面では、そういう施設の有効活用をするということも大事なことで、どう町民の健康を維持できるような仕掛けをしていくかというのは大事なことで、せっかくある施設を有効活用しなきゃならないと思っておりますので、これは受けとめておきたいと思っております。その他、どうでしょうか。

小林委員 図書館は、あの場所に建てられていて、平取は町が広いので、やっぱり移動図書館を頑張ってくれていて、あと私も読みたい本をリクエストすると、全道から、道立図書館や苫小牧とかから、すごく早く取り寄せていただいて、便利に使わせてもらっています。ただ、ちょっと寂しいのが、いっぱい本が残ってるなっていうのがあって、読みたい本が新刊でも割りとあったりして、貸出数がちょっと少ないかなって思います。冊数の制限もなくなって、何冊でも借りれることになったんですけど、その割りにあまり増えてはいないのかなって思いました。足を運ぶのも子供たちが多くて、中間層がなかなか足を運ぶ時間がないのかなって思います。

町長 図書館活動の推進は、町民にとっては子供たちばかりではなく、大事なことで、これは維持しながら、さらにもっともっと図書を買って、みたいな感じの要求が来て、困るぐらいの方が、私はいいと思っております。あと、特に国際交流の関係では、マオリだからアイヌの人との交流っていうか、もっと垣根を下げて高校に入ったら、アイヌの生徒でなくてもいけるような、そういうことに展開していかなきゃならないかなっていう感じがしています。そういう経験というのは、とてもいいことだと思っております。

教育長 一昨年はマオリの方から来て、そして、アイヌ語教室の子供を見たり、中学校へ行ったりして、そういうアイヌの子供たちを留学として受け入れた

いという話をしてきました。それを受けて、うちの方も今年マオリから受け入れをしたいということで、アイヌ協会の方に受け皿なってもらったんですけども、できれば町長が言ったとおり、一般の子供たちについても、平取高校に行けば短期留学の可能性があるというようにした方がいいと思います。実行委員会みたいなかたちなのか、高校の支援協議会が受け皿になるか、そういうようなかたちで門戸を広げた方がいいと思いました。

町長

6番目に参りたいと思います、アイヌ文化の振興、これは、教育長からお話あったように、町の重要施策の一つとして、位置づけながら、今は本当にいろんなかたちで、二風谷を中心にしながら整備を行ってございますが、本当に沙流川流域全体が、イオル、生活区間ということで、博物館だと思ってございますので、これについてはですね、やはり、町の将来を担う、そういった振興、やっぱり町の発展しているところは文化が発展しているんです。そういう面ではやっぱりうちはもう食と文化を、軸にした町づくり、基幹産業をきちっと強化するということと、それと古くからあるこの文化を大事にする。自然を大切にする文化というのは、町全体を豊かにすると思っていますので、そういうかたちを一つの軸にしながら、枝葉が付いてくれればいいかなと思っていますので、こういうかたちで展開しますが、特に、どうでしょうか。博物館、歴史館の推進、全体を含めて、何かご意見あれば。

本間委員

勉強不足で申しわけないんですけど、平取ダムのところには管理棟ができる構想がありまして、そこに何か展示物を展示できるスペースを作るというかたちになるようですけども、そういったところも、二風谷の歴史館みたいなような展示物だとか、わざわざ奥までいくのかどうかちょっと分かりませぬけれども、そういった展開をしていくのかどうか、どうでしょうか。

副町長

平取ダムの管理棟に併設したかたちで、建設が進んでいまして、内容としては、ダムができる上で、あそこで失われるアイヌ文化の復興、代替案をずっと検討してきました。そういったものを後世に残すという意味での一環の施設を建設することになっていまして、特に、ダムの事業用地内のいろんな資料ですとか、今まで分かっているようなことを展示するというようなことになっています。ちょっと似ていますけれども、二風谷歴史館とは内容も違ったものなのかなというところで、うちの町は広いですから、いろんなところに文化の軌跡が残っていて、そういったものをネットワークさせて、つなげることでさらに深みが出るのかなと思いますので、今回はダム関連でできる施設ですけれども、既にある博物館とか歴史館とも絡めて、行ってもらえるようなものができればと思っています。施設としては開発局の施設なので、そういう意見もいただいたので、反映できるよう

にしたいと思います。また、来た方をどういう形で受け入れるかというなことも検討したいと思います。

町長

二風谷のそれぞれの施設の点と点を結びながら、うまく連動しながら、気がついたことをこちらの方で、もう1回学習するとか、いろんなかたちで、アイヌ文化の理解、促進にもつながるようなかたちで、ダムは国の管理ということで、経費がかからないようなかたちで考えてますので、何とか有効活用しながら、流域全体がアイヌの生活区間なので、二風谷だけじゃないというかたちのそういう歴史的な経過もありますので、来た人にも理解されるようなことを、また国ともお話をしながら対応してまいりたいと思っています。それとすずらん会場の裏にも、重要な植物を移設してありますね。そこもきちんと整備していますので、そういう重要植物も植えてありますので、自然のことが観察できることになっています。そちらをうまく活用できることがこれから大事なことなので、しっかり受けとめたいと思います。その他どうでしょうか。よろしいですか。それでは7番目の文化財の保護と活用との関係、重要文化的景観の整備計画ということで、これは今、3次目の計画をしていますので、簡単でいいので説明してください。

アイヌ施策推進課長

第3次選定ということで、21世紀アイヌ文化伝承の森ということで、事業の対象地だったんですけども、今年の1月に、3次選定の申し出をいたしまして、6月にオープン化審議会で答申をされたんですけども、そのところは、まだ最終的な告示というか、官報に管告示はされていませんけれども、答申されたということで、国有林の調査したところは3次選定がされるというような状況になっています。そこは特に三井の第2体選定の森だったんですけども、今回も国有林ということで森をどう価値づけをするかっていうことに苦労はしたんですが、国有林林野庁とのやり取りがありましたけれども、選定にこぎつけられると思っています。4次以降は、またこれからも調査をしていますけれども、方向としては幌尻に向かっていくようなかたちでやっていきますが、今年度の30年度の調査については、二風谷から下流ということで、例えば本町であれば義経神社ですとか、あるいは紫雲古津、去場であれば、トマトの農業を、トマトの発祥地っていうこともありますし、それらの伝承地などもありますので、そこら辺を調査をしながら、また幌尻に向かっていくというようなかたちで、2年3年かけて、少し調査をして最終的には平取全域という事にはなりませんけれども、そこは重要構成要素としてポイントをしっかりと調べながら、進んでいくのかなというような状況になっています。

町長

7番目の文化財の保護と活用との関係で、この機会ですから、分からないというようなところがありましたらどうぞ。

堀内委員 振内の鉄道記念公園なんですが、ぜひ文化財課の管理下において欲しいなという気がいたします。幌尻祭りをやっている最中も、お客さんが見たいんだけど、ただそのまんまというような状況とか、現時点では、何にもされてないのが現状だと思われまます。あそこで何かイベントをやっているときにでも、何か展示をするとかそういうような工夫をしていただけないかなと思ひます。鉄道管理するの、展示物も、全くできた時のそのまんまの状況で、何にも発展性もないし、見たい人も見れないような状況だと思われまますよ。そういう部分では、沙流川歴史館の下に、鉄道歴史館なり、平取鉄道的、歴史館なりっていうような名目で、一括して管理するのは、流れる的には普通なんじゃないかなっていう気がいたします。ちょっとしたお願いでございます。以上です。

町長 内部で十分検討させていただきたいと思ひますし、特に鉄道の列車については、直させていただきますので、観光商工課にもお話しましたがけれども、誘導看板というか、ここに宿泊施設があるんだということで、そういう看板が必要ということを知っていましたので、それはもうすでに話してありますので、そういうかたちで、知らない人が結構いるのではないかなと思ひますので、その辺もあわせて整備をしていきたいと思ひますし、今の関係については、お話として承っておきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

堀内委員 観光施設としては非常に客を呼べる要素のあるものだと思うんですね。だから、ぜひ、その部分では考えてほしいなと思ひます。

町長 ②の今後の総合教育会議の開催の関係、総務課長。

総務課長 はい。第2回目を、予算を始める前の時期11月に開催したいというふうにかけてございます。よろしくお願ひいたします。

町長 ということで、11月ぐらいにまたお知らせしたいと思ひますので、よろしくお願ひします。それでは(2)のその他の方に進めさせていただきます。①の町内の小中学校の現況の関係、3番目まで一括説明の方お願ひいたします。

教育長 簡単に説明していきたいと思ひます。町内の小中学校の現況については資料2の方を見させていただきますと、各学校の生徒数ですとか先生の数が載ってるといふような状況になってございます。7月現在で小学校5校あわせて253名中学校2校で123名、合計で376名ということで、昨年より、小学校で12名、中学校で11名の減というふうなかたちになってご

ざいます。特別支援学級への入級者小学校の7名、中学校3名というようなかたちでございませう。教職員体制としては今、30年度を校長が3名、教頭5名が、新たに代わって赴任しているとの状況でございませう。一般教職員も含めて異動がありましたけれども、現在児童生徒及び保護者地域とも積極的に信頼関係を、構築しているような、状況でございませう。町単独採用の職員ですけれども特別支援教育支援員、先ほど出ておりましたけれども小学校4校、中学校1校で合わせて12名配置をしております。毎年、学校訪問というのをやっておりますけれども今年度6月末に、学校訪問をしているところでございませう。運動会が終わった段階ということでもありましたけれども、各学校とも落ちついた状況ということで、昨年ちょっと課題があった振内小学校についてもですね、校長教員の努力、また子供たちもですね学校の雰囲気慣れて大変明るくなっているというかたちでございませう。貫気別小学校については6年生が欠落という状況なので、本来だったら1、2年生は単式で行く所なんですけれども5年生が単式となっているということで、1、2年が複式になっています。人数の多い割には。そういうことありまして町費負担の時間講習1名配置して主要科目のサポートですとか集団生活のルール、学習規範等の習得にあたっているということで、保護者の不安解消に努めているような状況でございませう。昨年、ふるさと親子留学で来ました2家庭、振内小学校中学校に児童生徒が在籍しておりますけれども、現在、落ちついてるような状況でありますけれども、今後どのように変わるかわからないというような状況もありますんで、家庭学校教育委員会、保健福祉課と連携をしながら、対応していきたいというふうに思っております。その他にも若干心配される児童生徒、数名おりますけれども、家庭環境等も含めて、関係課と連絡を密にとりながら、不測の対応だとかそういうものをしていくということで今現在進んでいるところでございませう。次に平成30年度の学校経営計画につきましては各学校の計画が載っておりますので、道でお目通しをしていただければというふうに思っております。また、③の平成30年度の生涯学習関連事業ということで、今年度の事業、もう半分近くを過ぎてきておりますけれども、このような計画で行うということで資料に載っておりますので、お目通しいただければというふうに思っております。以上でございませう。

町長

いかがでしょうか。特に学校の先生の関係については、いろいろと人事異動の関係ではやりとりがあると思っておりますけれども、よろしくお願ひしたいなと思ひます。

教育長

以前から見れば、町教育委員会の意向はかなり聞いてくれるようなかたちでありますし、基本的に一般の先生でしたら、6年経過したら異動の対象になるということで、長期に残る先生はいないというようなかたちで、今

は、ほとんど動いているような状況になっております。一昔前は北教組が強いというようなかたちでしたけども、今はあまりそういうような状況もなく、うまくつき合いながらというか、そういうようなかたちで進めていきたいというふうに思っているところで、特に問題があるような状況はありません。

町長

その他、ございませんか。なければ④のトマトの里構想に行きたいと思えます。課長が来ておりますので、説明のほどよろしくお願ひします。

産業課長

お手元資料の5を見ていただきたいと思ひます。時間があまりありませんので、簡単に説明をさせていただきます。トマトの里構想素案というものを配らせていただきました。上の方に目的が書いてありますので少し読まさせていただきます。昭和47年に6戸の農家でスタートしました平取トマトは45年後の平成29年には、163戸の農家で作付面積115ha、年間収穫量1万2555トン、43億6300万円の販売高になりました。現在農家の高齢化担い手不足により生産農家が微減し産地は生産拡大の時期から生産維持の時代に入っております。減少する農家を、後継者対策や新規就農者の受け入れなどで、生産量を確保し、日本全国に健康の源であるトマトの安定供給を目指すとともにまちに暮らす人々が健康で元気になることを目標に、このトマトの里構想を提案したいというふうに考えております。この里構想をこの春から検討してるところなんでありますけれども、なぜこの里構想かということにつきましては、今の目的の中にも記載しましたが、まず一つうちの町は、全道一のトマトの産地、生産地であり、年間43億の販売高があるということです。さらに平取トマトのニシパの恋人というのは全国的なネーミングになっております。昨年若干トマトジュースの不具合で改修を行いましたけれども、農協の職員に聞くと、全道は全国津々浦々から返品の手紙が来ると、沖縄の本当の小さな島からも電話来るという状況で売ってる方としては、そんなところまで行ってたのかっていうような状況であります。トマトの大産地であるのに、トマトを感じられないというのはよくこられたお客さんから聞かれる言葉です。平取ってトマトの町なんだよねと、入ってきたんだけどよくわからない。たくさんハウスがありましたよねっていう説明をしますけども、あつ、あのハウスでトマトを取ってるんだというぐらいの会話になってるのが現状だと思ひます。平成19年に町としては農協と一緒にトマトの里づくりプロジェクトというのを、3年計画で実施をしてきました。それ以降具体的な里作りというのは名前は上がってなかったんですけども、今回新たにトマトの町として、その明確に旗を上げたことがないので、きっちり、トマトの里平取というものの旗上げをしたいという思いで今回のこの里構想を計画しております。全道一のトマトの産地として、トマトによるまちづくり

で、今ある43億円の販売高の経済効果を最大限に活用し、知名度を向上を図ってまいりたいと思います。知名度向上で住む人、出身者、そして、その人たちがふるさと平取に自信を持つことができ、地盤のできる町になるんだと思います。生産者は、今以上に生産意欲の向上につながるというふうに考えておりますので、この構想を立ち上げていきたいと思っています。この構想の中は、基本的にはありたい姿というのを書いていきたいと思っております。誰がいつこのようなことをやるというふうに書いてしまうと、どうしてもその団体の縛りがありますから、町が直売店を5年後に作り出すとかっていう記載をすると、それはそれで総合計画との整合性等々いろいろ出てきますので、そういう具体性は書きませんが、トマトの里として、直売店があったらいいなレストランがあったらいいなとかっていうありたい姿をみんなの思いを、この構想の中に書き込んでいきたい。住んでみたいまち遊びに行きたいまち、食べてみたいトマト料理などなど、そういうもののありたい姿をこの計画の中に、書き込んでいきたい、それができ上がった時点で、それに対して、町や、農協や団体企業や、町民農家ができるところから一つ一つ取り組んでくというかたちにすることが一番いいのではないかと考えております。ある程度の絵があれば、農協が、町が、企業が、こういうことをやりたいなと思ったときに、そういえば構想があるよね。それに基づくと、僕たちの考えはこの位置にあるから少し農協と話をしようか、一般の人と話をしようかということで、それぞれがばらばらでやるんじゃなく、一つの目標に向かって走っていくような形を変えていきたいというふうに考えております。現在この素案を10月31日まで、意見を募集をしております。ホームページやまちだより広報などで意見を募集し、9月には懐かしい名前でありますけれども、びらとろんを復活させて3地区で説明会というか意見募集の会を開催をしたい。さらには出前講座として、要望があれば各団体に出向き、意見交換をさせていただきたいなと思います。11月の下旬にはまちづくり講演会を開催し、その中で案を発表してまいりたいと思います。そして、なおかつ、案を発表して以降も、さらに、公開をし、意見の募集を行っていくと。その案に対してどんな、意見がありますかっていう募集を行っていきながら、来年の2月その案を構想に決定をしたいというふうに考えております。決定の段階では、さらにもう一度トマトの里構想シンポジウムという仮称でありますけれども、そのようなシンポジウムを開催をし、全道に向けて発信をしたいというふうに考えております。それで素案と書いてある、トマトの里事業というのは本当に素案でありまして、例えばということで書かさせていただきました、なかなかトマトの里と言ってもよくわからないという意見がありましたので、最低限のベースを出して例えば買うところや売るところはどんなものがいいですか、食べるころはどのようなところが、見るところはどのようなところがあったらいいですか、考えるところは、作るこ

る、触れるところは、見せるところは、いろんな五感に訴える方法があると思いますので、そのような、キーワードからいろんな意見をいただいて、この構想を書いていきたい、それをたたき台として、その中に直売店やレストランやトマトの館、トマトの館なんていうのは、平取のトマトをかなり昭和47年からの歴史がありますから、その歴史がそこでわかる、そして、世界のトマトが見れる、ハウスの中で、トマトを直接取ることができるだとか、そういうような場所をつくっていったらどうだろう。これは夢であり、思いでありますから、皆さん、いろんな考えが出せるんだと思うんです。いつ誰がやるということを書き込むことになれば難しいんでしょうけども、こういうふうにとマトの里をやることによって、43億の経済効果が今はもしかしたら0.1%しかないかもしれませんが、実現することによって5%10%というかたちになるんじゃないかっていうようなかたちに持ってきたいなと思っております。当然、里構想を応援していく、応援団のあり方、ファンクラブ、応援なんていうのは企業を対象に考えておりますし、ファンクラブというのは個人を、ただ、皆さんとの町民との議論の中で、そこまではいらないということになれば落としていきたいと思っておりますけども、いいことだということであればこういうものを書いていきたい。また、財源についても、単純に補助金だけじゃなく、それぞれが支出をする、基金なんかもいかななものでしょうかっていうのも、素案の中では提案をさせてもらっております。これらのベースに、今考えているのは、トマトトマトと言って、トマトが売れば儲かるのは農家で、別に僕らは関係ないよってというような感じになる、農家が儲かればいいっていうかたちに思われるとまた町外からそう思われても、あなたの町だけ潤えばいいんだろうと思われたくないの、ベースには、トマトで健康になる条例というのを置いていきたい、トマトというのはもともと健康なものでありますから、健康なトマトを全国に発信をする町、全国の人たちの健康を守るために、おいしい健康なトマトを、私たちは作って、提供して行くんですよってというような、かたちづくりにしていきたい。そうすることによって、単にいい儲け主義ではなく、健康づくり宣言の町、平成元年に平取町では行っておりますけども、それに基づいた一つの施策であるというふうにしていきたい。ただこのトマトで健康になる条例というのは愛知県東海市が、カゴメトマトジュースの発祥の地でありまして、もう先輩としてやっております。トマトのレシピなんかもいろいろ開発して、町全体としてやっている。ご存じの通り、水道の蛇口を出るとミカンジュースが出るという、愛媛県の取り組みがありますけども、東海市に行くと蛇口をひねるとトマトジュースが出るという、そういううちもあるというふう聞いております。そういったところの先進地の情報なんかも仕入れながら、取り組めるものは、取り組んでいきたいなと、できるかどうかわからないけれどもたくさんの方のことを書いて、トマトの里構想として、将来平取が、4

0億なり43億の販売高を有効に地元還元できるような、経済波及効果を生ませるようなものを書いていきたいというふうに考えております。現在この里構想のアイデア募集中というのを役場、産業課、両支所長、さらにはJAの本所、貫気別振内支所の方に置かせていただいておりますし、先月の広報にも出させていただきます。ホームページにアップしておりますけども、今週のまちだよりでも、びらとろんの説明をさせてもらっております。1人でも多くの方の意見をいただいて、この里構想を立ち上げていきたいというふうに考えております。以上里構想の現状と意見を説明させていただきます。

町長 はい、ただいまの産業課長の方から、トマトの里構想の素案についての説明がございましたけれども、皆様の方から何か、ここは聞きたいとか何かございましたら、承りたいと思いますが、いかがでしょうか。本間委員どうでしょうか。

本間委員 すばらしいことだし、生産者にとっても心強いことで、いいなと思います。残渣物の処理を大々的にやって、副産物の何かに利用できないかなっていう研究もしてほしいなと思います。残渣の殻のほうはいいんですけど、トマトを投げるですね。あれを、例えば堆肥に還元できないかとかっていろいろ自分でやってみるんだけどなかなか、できないんです。例えばちょっと病気になったとか穴空いたとかってなると、廃棄しちゃうんですけども、何か使えないかなっていつも思うので。トマトジュースばかりでなくて、もっと付加価値の高いものもして、そういうのもね、この里構想の中でやってくれたらと思います。

産業課長 はい、そういうことを、この中で書き込んでいきたいと思いますし、リコピンの部分については現在調査をしまして、他の産地よりは平取トマトのリコピンの度合いは高いというのが分かっておりますので、そういう点は公表していきたいと思います。捨てているトマトの量だとか、それは食べれるものですよ。今、調整しているのはトマトのスープとかトマトの出汁っていうものの活用の仕方をちょっと考えているんですけども、そういうのに転用できるといいのかなと思います。

町長 平高生も、トマトクラブで発表していましたね。

産業課長 先日、馬路村に行ったときにゆずが化粧品で、健康食品でっていう声も聞いてきていますので、その研究施設とかそういうところとの連携がうまくいけばとは思っています。あるですね、それぞれ今、平取も開催しますしまたいろんな皆様のご意見も是非、お聞かせ願いたいと思います。

町長

それぞれ今、びらとろんを開催していますし、またいろんな皆様のご意見も是非、お聞かせ願えればありがたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。それでは次に、⑤番目の二風谷の再整備事業について、資料6で説明お願ひします。

まちづく
り課長

私の方から二風谷再整備事業について、ご説明したいと思ひます。座ったまま説明させていただきます。資料6、これが図面になっておりますけれども、今年度やる事業ということで、今年度につきましては、国道側の駐車場、それからトイレの移設、それから池の側のカフェの建設等を行う予定になっておまして、現在のトイレの新築工事、それからカフェの新築工事を進めているところであります。新築工事が終わってから、駐車場の整備だとかってということで、今のトイレの前のところを歩道、通路ということで、整理をするようなかたちになっております。それから次のページですけれども、新築トイレのイメージ図と、カフェのイメージ図ということで、このような感じのトイレとカフェをそれぞれ整備することで今、工事を進めているところでございます。それから次に園内の照明の関係なんですけれども、これにつきましては年内に遊歩道を作りますけれども、この赤い横長ののが広場証明という背の高い照明になります。それから、フットライトということで、オレンジ色のやつが高さ60センチぐらいの遊歩道の足元を照らすフットライトということで、これを設置します。それからそれぞれのチセ等を、知らしますスポットライトにつきましても、現在のチセに向かって、7基ほどつけるようなかたちになっておまして、その内、遠路燈と言われております広場の照明につきましては、その次のページのイメージ図ということで、細長い楕円形をしたようなかたちの遠路燈でそんなに明るくはないんですけどもこういうようなかたちで作っておまして、真ん中にはアイヌ文様を施すということで、これについて今二風谷の民芸組合の方に図案を依頼してまして、これは本当に案ですので、この絵ではないんですけども、アイヌ文様を施して、ここの広場にふさわしいような証明にしていきたいというふうに考えております。それから裏のページでサインなんですけれどもここに現在この二風谷と書いて大きな看板が立っているかと思うんですけども、これについては撤去しまして、イメージとしましては、この下の左側の二風谷コタンと書いてあるサインを作るとということで、建てる場所につきましては、現在の看板とほぼ同じ位置に建てる予定でございます。高さが約19メートルということで、現在の看板から3メートルぐらい低いんですけどもそれでも背の高い看板になります。イメージとしては、右側の下側に現状の看板と新しく立てる看板のイメージの高さが出ておりますので、そのような感じになると考えているところです。現在、工事を進めておまして、建物につきましては年内を目途に、それから園路だとか広場につきましては、来年3月中ぐらい

までに整備をするということで、来年の春から新規にオープンできるように、準備を進めていきたいなというふうに考えております。なお、今あそこの周辺一帯は、正式名称というのが、条例上では二風谷観光公園ということなんですけれども、条例上の名前は変えないかなと思ってるんですけれども、地域での話の中でその辺の一帯につきましては、二風谷コタンというカタチで、統一した名前で、今後、呼んでいってはどうかっていうことで、通称というか愛称というか、看板もこのようなかたち二風谷コタンということで、していきたいなというふうに考えております。以上です。

町長 今、説明がございましたけれども、もう3年目ということで今年度、完成を予定でございますけれども、これらについてのご質疑を賜りたいと思いますが、いかがでしょうか。街灯がスポットライトも含めてつくると既存の街灯はどういうふうになるかちょっと説明してください。

まちづくり課長 既存の街灯は全部撤去いたします。基本的には24時間開園となっておりますが電気につきましては、地域の話なんですけれども、ちょっと心配しているのが不審者や、テントを張ってキャンプなどされても困りますので、夜間は消灯した方が良いか、そういうのも懸念されるかなって思いますので、管理する上で検討していきたいと思います。

町長 あともう一つは、池のそばにカフェができるんですけれども、この中身を、今イメージしているものを説明してください。

平村委員 当初、運営していただける方に委託していこうと思っていたんですけれども、なかなか時期的に、一年中通して、人が集まるのはなかなか難しいのではないかとということで、現状では、まだ地域の方には相談したいんですけども、指定管理のようなかたちで、5月連休前ぐらいから11月ぐらいまでの中で、簡単な飲み物だとか、例えばソフトクリームだとかそういうものを提供できるようなかたちで運営できたらなって考えております。

町長 私から言うのもなんですけども、せっかく二風谷に来たので、例えばイナキビだんごのような、二風谷でしか食べられないようなものを置いて、コーヒーと一緒につまめるものがあるといいと思うんですけど。参考までに、どうでしょうね。やっぱり平取に来てあれが食べたいんだよねっていうのがあるんですよ。そういったものを特化してできるのかどうか。そんなことも、少しずつ広げられればいいと思うんですけども、よろしいですか。次に、⑥番目の、平取町アイヌ工芸伝承管理事業について、説明をお願いいたします。

アイヌ施策推進課長

はい、それでは資料7に基づきまして、平取町アイヌ工芸伝承館、仮称ということで、事業概要について、説明させていただきます。この事業はどのように行ってきたかということも、この場では初めてですので、経過なども少し説明していきたいと思えます。これについては平成27年度、二風谷民芸組合から、建物の老朽化などにより、要望がありまして、建設に向けてのこともあったということになっています。平成28年度、第6次の総合計画の事業実施計画に計上したということで、当初は平成30年、31年というようなかたちで想定をしておりましたが、農林水産省の予算のことも含めて、できれば29年度で実施計画または、実施設計あるいは建築をできないかということもありまして、それで協議をした結果、少し前倒しというかたちになっています。この間の自治体との協議ということで、建設場所が二風谷の生活館の、第2駐車場ということで、駐車場がなくなるということもありまして、自治会との協議もしましたけれども、駐車場がなくなる分、既存の共同作業場のところを駐車場化をして確保するということや、あるいはあの周辺の公営住宅などの老朽化しているところは、順次撤去して駐車場化をするというようなことで、了承を得てこの場所に建築をしているというところなんです。平成29年度の事業としては3億800万位ということで、その次の半分1億5000万が農林水産省からの交付金と残りは起債を借りてというかたちになっています。建設に当たって、その愛称を決めまして、ウレシパという育て合うという意味ですけども、そういう愛称をつけています。平成30年度は外構工事と機械購入と機械のメンテナンス一般備品ということになってますけれども、基本的に今のある機械を新しく買うと非常に高くなるということもあって、既存の機会をメンテナンスとして新しい機械を2、3機購入するという事として進めています。事業費は4400万ということで、農水省からは1000万の交付金を得て、残りは起債を充てていきたいと思っています。仮オープンと書いてますけども、建物が建って機械のメンテナンスが終われば、仮オープンということで、今年の10月秋以降、実施をしていきたいというふうに考えています。少しでも、利用していきたいというふうに考えてます。本格オープンというのが来年の4月ということで、先ほどの二風谷の再整備事業もそうですけれども、来年4月オープンということもありますので、それは一気に進められればなというふうに思っています。2の施設の概要ということで、木造平屋で約1000平米と、木材を含めて、これだけの面積ということになっています。次のページの方にA3の裏表がありますけども、これは、農林水産省から交付金をもらうための資料ということで、交付金というのがもともと農村地域の宿泊というようなことで、その交付金を充当しているということもあって、びらとり温泉とこの施設が連携をして、温泉の宿泊数を増やしていくという、そんなコンセプトで交付金の整備基本計画というのをつくっています。1の方に伝統工芸

に関する拠点施設の割合と役割と求める基本機能ということが書いてますけれども、左の方では特に宿泊施設、あるいは地域の支援などを活用して、アイヌ伝統工芸をテーマとした、地域間交流促進のための拠点施設の整備ということと、中程は、白老に2020年に開園しますけれども、平取町としては広域関連区域ということもありますので、そこの役割を果たすあるいはの1番右手の方には、建物を建てるうえで、二風谷組合の皆さんとのヒアリングをしながら、作っているということで、これらがプラスしての建物ということになっています。下段の方の表では、作るとか見せるとか、活動とか、育てるとかという機能があるということですが、これまで、共同作業場というのはただ作る、木工機械を動かすということで実際利用者の方は、年間、1年間通じて使う方っていうのは2人から3人。あと、時間的に使う方が何人かいるという程度だったんですけども、今回は作るだけではなくて、育てるとか、見せるとか、集うとかっていうそういう機能も含めて、多くの方に携わってもらうというかたちのコンセプトになってるということです。この表の裏の方は沙流川歴史館から萱野茂先生の資料館までの流れとなっておりますけれども、基本的に博物館エリアから工の道を通って、このウレシパの方に来てもらう、そして萱野先生のところにも行ってもらうというそんなかたちの流れで人が動いていただければなというふうに思っています。次のページに平面図があります。これらの外構工事の平面図になっているんですけども、30年度で外構工事を行います、建物前面の方には、オヒョウの木を植えたりミズキを植えたりということとでちょっとこの図面よりも、実際には面積は狭い感じなので、この植え方は少し工夫をしなければなりませんけれども、こんなアプローチにしていきたいと思ってます。建物の中身でいきますと、入口を入りまして、事務室があってラウンジがあってギャラリーということで展示ができるスペースがあったり、あとは彫刻コーナーということで、木のフロアになってますけれどもこれを彫刻したりですね。あるいはアットウシ室というのがありますが、ここではアットウシを織ったり、手仕事スペースがありますけれども、ここでは染ものをしたり使用したりあるいはオヒョウのかわはぎのスペースを設けるなど、そういうようなかたちにしています。他のレーザー加工室というのも設けまして、そこで体験プログラムも実施をしていきたいと思っています。右側のほうですけども、機械加工室ということで、面積としては今の共同作業場の面積と、余り大きく変わらないんですけども、今の機械あるいは新しい機械を設置していきたいと思ってます。その向かい側には研修室ということで、二つの部屋がありますけれども、20名ぐらいの方が研修を受けられるというそんなスペースになっているということです。最後、その裏のページの方に利活用ということで書いています。この辺についてはこれから具体的な検討ということになっていきますけれども、例えば町外者向けでいきますと、公募

見学ツアー、ということで博物館エリアから伝承館や資料館ルートをつくって、今の博物館の方では二風谷エリアの見学コースということで2時間とか時間的なものを、つくっているんですけども、こういう伝承館を使いながら少し、温泉のゆからと絡めながら長い時間、体験などをできるコースができないかということを考えていきたいと思っています。2点目で象徴空間の人材育成ということで、2010年の開園に向けて、やはり工芸分野というのは、平取二風谷が強いものですから、そこで、運営者で働く方が、二風谷に来て、意見書を受けるということは、具体的にこれから行われるんですけども、そういう研修の場として使えるということや、あるいは大学間連携ワークショップということで、特にアイヌ文化体験を21日から8月までやってますけども、そういうものでも利用していきたいということや、これはできるかどうかは別としても、そのオヒョウの皮はぎから、年寄りなどの体験プランなども考えていくですとか、いろいろ活用については考えるものがあるということです。町内向けということで、人材育成の利用ということでは、イオルの職員については、冬季間、伝統的工芸品を、勉強していますのでそういう場であったり、町独自の人材育成の拠点ということで、これは伝統工芸の担い手の育成として、今年度から地域興し協力隊の制度を活用しながら、今、7月から1名協力隊で来ていますけども、そういうようなかたちにして、人材育成の拠点としていたり、3点目町内の小・中学校生のメニュー化ということでそれぞれあの時数はあるんでしょうけども、できればこういうところを使いながら、伝統的工芸品の二風谷イタ、アットウシということを町内の子供たちにも知ってもらう体験してもらうという機会を作ってはどうかという、これはまだ案の段階ですけども、その他、展示、工芸作家の紹介や、伝統的工芸品の制作過程なども町内向けにやってはどうかということで考えております。これらを実施する上で、下段の方に関連事業と書いてますけども、いろいろな体験メニューを検討する上で実践型地域雇用創造事業ということで、厚生労働省から委託をされている事業があるんですけども、その中でも、体験メニューについては検討してる最中ということや、農泊推進事業と書いてますけども、先ほどから言っておりますが、この事業というのが農泊推進というメニューで、もらっているということで、30年度は、ソフト事業ということで800万の金がついてますので、その事を利用して、もともとこの建物については指定管理制度ということで、町が直営でやるのではなくて、そういう団体が行うということと考えてますので、その組織をつくったり、体験メニューを考えたりということで、今、事業を進めているということです。これまでの、ただ、ものを作るということではなくて、多くの方が機械を利用できるものにしていきたいということなので、利用料をどうするかというのは、検討していかなければなりませんけれども、この事業は進んでるということです。以上、説明を終わります。

ます

町長

アイヌ工芸伝承館の事業の概要について、お話がございましたけれども、これまでありました、共同作業所の老朽化も兼ね合わせまして、2020年に白老象徴空間ができる広域関連区域としての役割も果たすというようなことも、説明があったとおりでございまして、これはもう、来年正式オープンということになります。この点についてご質疑を賜りたいと思います。

和田委員

アプローチのところに、オヒョウを植えています。表記というか、その説明書きがあったら分かりやすいかなというふうに思いますね。よく、博物館に行ったら、いろいろ書いてあるので。アットウシの原材料となる樹木であるということを明記すれば、そうなんだということで非常にわかりやすいというふうに思います。

アイヌ施策推進課長

シンボリックな木ということもあるのでそういう説明をさせていただき、付けていきたいと思います。

町長

チセとか、博物館がある道路を渡って、萱野茂資料館がありますので、そこの連動を考えてるものですから、生活館の場所にですね、通路の側に、こういった設備をしたということでございます。他にありませんか。なければ最後の議題として平取町交流サロン推進事業について説明をお願いいたします。

保健福祉課長

それでは最後資料の8になりますけれども、交流サロン推進事業で、これは地域主体の通いの場サロンの開設支援ということで、ご説明いたします。町内で開催されてる交流サロン8カ所ありますけれども、お配りした資料のとおりです。このサロンに集まる方は、おおむね65歳以上の高齢者などで、その活動内容は、地域のボランティア、そういう方々の活動でお手伝いのもとです。介護予防や閉じこもりなどの孤立防止、仲間づくり生きがいがづくり、参加者同士の見守り、助け合いなどを目的とした活動です。週1回程度開催しております。それによって地域の支えあいをもって、介護を必要としない元気なお年寄りが増えるということを目指すものです。運営は自治会、老人クラブ、社会福祉法人、地域のボランティアということで、開催されています。それぞれ資料のとおりです。一通りの説明をしませんけれども、運営主体開催、場所を規律、参加する等については、表のとおりです。これらの活動内容としましては、100歳体操、それとボールを使った健康維持運動、また体力の測定、情報交換など、それとレク

リエーションです。そういうものが主に実施されていて、場所によりましては、筋力トレーニングやストレッチというのも行われています。子供から男性の参加がどこも少ないという状況の中で、本町の交流サロンかつら、他の生き生きサロンでは、健康マージャンというの行っていて、男性の参加者の確保も、少ないんですけどもやっているという状況です。町としましても、こういうサロンの健康教室とか、健康相談、それと口腔ケアの講習、そういう支援とともに開催経費の支援ということで、契約を結んだサロンにおきましては開設のときに、備品の貸付、消耗品等の支給、その他毎回開催されるサロンの運営費として、1回1200円ということ。若干でありますけども助成も行っています。将来的には運動指導士とかの人的体制を整えば、各サロンでのリハビリ訓練の拡大というのを目指しているところです。このように、地域における会への場として高齢者の社会参加の促進、それによって健康増進を図る、このサロンの運営について、今後行政としても各種学習活動での支援というのも含めてやっていきたいと思っておりますので、教育委員の皆さんにおかれましてもご理解とご協力をよろしくお願いいたします。以上です。

町長 はい、最後の協議事項の交流サロン推進事業ということで、進めているところですが、これについての、何かご質疑賜りたいと思っておりますがいかがでしょうか。

教育長 これ、全地区に設置するというような、自治会などいろんなかたちで進めているんですか。

保健福祉課長 はい、いろいろ自治会や老人クラブを通じて、こういうものがあるのでというお知らせは随時しているんです。ただ、場所によっては、どうしてもやってくれる人がなかなかいないとかいろんな事情があって、進んでない地区もあります。今、お話があるのは二風谷とか、以前は長知内、小平など、そういうところでお話があるんですが、随時いろんな機会を通じて、普及していきたいというふうに考えています。今、二風谷の方で一生懸命やっていただける方が、いらっしゃるようなので老人クラブなど、そういうところに行って説明をしてきました。このほかに小平でもちょっと興味があるような話もありました。それと、昨年長知内でもかなり前向きに進んでいたところもありましたが、ちょっと今は停滞してる状況です。以上です。

町長 ということで少しずつ地域全体に広がっています。そこに行けばいろいろとお話ができるとか、そんなことで非常に楽しみにしているようでございますので、町としても推進していきたいなというふうに思っているところ

でございます。

和田委員

高齢者のサロンということで非常に各地区できてきてるなというふうに思っています。荷葉地区でも、平取ふれあい子供食堂っていうのを、やらせていただいています。子供たちと高齢者の、ふれあい交流を目指して今、やっています。その中で、お年寄りであるとか、子供たちが触れ合う中で非常にいい雰囲気ですべていただいています。3カ月に一度のペースでやっておりますけれども、スタッフが率先して地域の方に声をかけて、そして子供たちを集めて、交流をしているということは、本当に素晴らしいことだというふうに思っていますので、ほかの地区でも飛び火できればいいなというふうに思っています。以上です。

町長

はい、ありがとうございます。

副町長

私どもも関係団体を集めて委員会をつくって、今どうやるかみたいな議論をしているんですけども、以前、去場でも放課後子ども教室とサロンを一緒にできないかということを試みとして、やったんですが、なかなか子供たちが元気過ぎたんで、やり方もいろいろと考えなきゃならないところがあるのかなと思います。それでいろいろやってみてやっぱりサロンに行く足が、大変なお年寄りが多いということで、その移動手段をどうするかという非常に大きな課題なんです。介護保険の中でも、幾らかそういった方への支援もできるということもあって、あとそういった制度も使いながらたくさんの方々に対して、より多くの場所で開設できればと思っています。やっぱりやるのが同じようなことになるので、マンネリ化するようなところなので、主催者側の学習といいますか、次ちょっとこういうことをやってみようという努力も求められると思います。その辺も、町としてもいろいろこう関わりながらやっていきたいなというところなんです。

町長

はい、ありがとうございます。その他でしょうか。ありませんか。

これでは、長時間に渡りまして、本当に盛りだくさんな協議の中で貴重なご意見をいただきまして誠に感謝申し上げます。いただいたご意見については、できるものから町政に反映させていただきたいというふうに思っております。来年は開町120年という節目の年を迎えて、さまざまな事業、例えば二風谷の再整備、あるいは伝承工芸館、また国保病院、それから町営の公設のグラウンドも現在取りかかっております。節目の年に、オープンできるということはもう大変うれしく思いますし、皆さんとともに、喜び合いたいなというふうに思っております。来年は節目というなことで、ささやかになるかと思いますが、記念事業、皆さんとともに、実施をしていきたいというふうに思っておりますので、

どうぞよろしくお願ひ申し上げまして、会議を閉じさせていただきます。
ありがとうございました。

(閉 会)